

HPVワクチン接種

■3年ぶりの市民医学講座
9月24日、由利本荘市カダーレで、由利本荘医師会・由利本荘市およびにかほ市の三者共催による「第93回由利本荘・にかほ市民医学講座」が3年ぶりに開催されました。

今回の市民医学講座のテーマは「地域から子宮頸がんを撲滅させるために」HPVワクチンの重要性」でした。

女性特有の子宮頸がんは95%以上でヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によって発症するがんと言われていいます。裏を返せばウイルス感染を予防できれば撲滅できるがんということになります。HPVワクチンがそのためのワクチンです。

■HPVワクチン接種の開始と中断
日本では年間約1万人の女性が子宮頸がんを発症し、約3千人が亡くなっています。しかも最近では20歳から30歳代の女性の子宮頸がん罹患率・死亡率が増加しています。

HPVは50歳までの女性の約80%以上が一度は感染すると言われていいます。100種類以上あるHPVのうち子宮頸がんを引き起こす高リスク型は13種類です。また、接種対象が13歳から16歳なのは、このウイルスが性交渉によって感染することから中学生期がワクチン接種の適齢期とされているためです。

日本では平成24年から13歳から16歳の女子へのHPVワクチンの定期接種が始まりました。これにより国内の子宮頸がん

んはほぼ征圧できるものと多くの人が期待しました。ところが、定期接種は開始からわずか1年で実質的に中断となってしまうしました。それはワクチン接種後にけいれん等の症状を訴える人が相次ぎ、マスコミ報道で「子宮頸がんワクチン（HPVワクチンのこと）は危ない」という空気が広まり、政府が積極的勧奨を停止してしまっただけです。

■世界の認識は
当時のHPVワクチンに対する世界的認識は安全で有効であるというものでした。WHOもHPVワクチンの有効性と安全性を何度も宣言していました。その後も世界各国でHPVワクチンの効果が証明され、日本でもHPVワクチンの有効性を裏付けるデータが次々と報告されました。現在、国内のほとんどの小児科医などの医療関係者は、HPVワクチン接種によって発症したと言われている症状はこの年頃の女子に見られる「心身反応による機能的障害」であって、HPVワクチンが新たな病気を生み出したわけではないと認識しています。

いまHPVワクチンは世界140カ国で承認され、110カ国で定期接種となつています。日本も今年の4月に12歳から16歳の女子に対するHPVワクチンの積極的勧奨を再開しました。また、9年間のブランクで接種を受けられなかった女性へのキャッチアップ接種も始まりました。日本もようやく世界の流れに戻ったわけです。

■男子にも有効
実はHPVは男性に多いとされる咽頭がん、直腸がん、肛門がんなどの原因でもあります。ゆえに50カ国で男子へのHPVワクチン定期接種も行われています。

■言いたいこと
日本ではHPVワクチンを「子宮頸がん予防ワクチン」と呼んでいるために、女子のためのワクチンと誤解されてしまっています。この誤りは早急に正されなければなりません。

現在、国内の定期接種で使用されているワクチンは2価と4価です。子宮頸がんの約90%を予防できる9価ワクチンは任意接種のままで、そこで市は今年度から予防効果の高い9価ワクチン接種への全額助成を開始しました。全国ではにかほ市だけです。また、男子への公費助成によるHPVワクチン接種の導入もいま検討しています。

HPVワクチンについては一部に反対する声があります。ですが、HPVが原因のがんをワクチンで征圧できるならば、子どもたちの未来のためにHPVワクチン接種の推進をためらうべきではないと私は考えています。

にかほ市長
市川雄次

私たちソフトテニス部は現在2年生男子3人女子2人、1年生男子5人の計10人で活動しています。仁賀保高校のソフトテニス部は昨年から活動を再開しました。しかし、学校のテニスコートが使えないという問題を抱えています。ネットの支柱が折れていることや、コートの整備費用など私たちが解決するのは難しい状況です。そのため、可能な範囲で仁賀保テニスコートやとんがり児童夢ばおを借りて練習しています。練習するコートの確保ができないときは、ラダートレーニングやコーディネーショントレーニングなど、練習の目的をしっかりと考えて出来ることに取り組んでいます。日によっては体育館の全面が使えることもあるので、その時は組み立て式のネットを立てて思いっきりボールを打ち練習に励んでいます。

普段、私たちはコートが自由に使えない分、コートを使って練習できることに感謝しながら日々の練習に取り組ん

困難な状況にも
負けず、
練習に打ち込む

でいます。そして、他校との練習試合や大会をとおして各自が自分なりの課題を見つけ、少しずつ実力を上げています。次の大会では、1つでも多く勝てるように冬期間も部員一丸となって頑張っていきたいと思っています。今後も仁賀保高校ソフトテニス部の応援をよろしくお願いします。

「起業体験プログラム」に参加しました

本校生徒会の2年生がJ P X（東京証券取引所）主催の「起業体験プログラム」に参加しました。株式会社を擬似的に設立・経営を体験するプログラムで、事業計画の立案や各所との取引、連絡、相談を経て実施されました。各企画は終了しましたが、生徒が代表取締役社長として「株式会社Sweets & Memory」、「株式会社Make Happy」を立ち上げパティスリー白川さん、苔りあんさんにそれぞれ協力をいただき、起業体験を行いました。



▲プログラム事業報告の様子

秋田県立
仁賀保高等学校

当校では、ボランティア活動による地域貢献、情報発信力強化による地域の活力向上など、地域課題の解決に向け「自分たちのまちを、未来を、楽しく面白く」していくためのアイデアを形にしていこう取り組みを行っています。

